

現状の課題

- ① 教師自身が外国語に自信がなく、外国語の指導について不安が大きい。
- ② 積極的に自分の思いや考えを伝えようとする児童が少ない。

具体の取組の内容

教師の自信, 指導力向上→児童の表現力の向上 **知る→ 慣れる 行う → まとめ つなげる**
○教師の自信アップ, 指導力向上のために ○児童の言語活動の質の向上のために

・指導過程の共通理解

・クラスルームイングリッシュの研修(本校職員, 大学教授)

・ALTとの打ち合わせの時間確保

・全職員による授業実践, 授業を参観し合い, 協議を行う

・研究会の実施(令和元年10月28日)

項目	内容
指導過程の共通理解	指導過程の共通理解を図る。授業実践の振り返りを行う。
クラスルームイングリッシュの研修	本校職員、大学教授による研修を行う。
ALTとの打ち合わせの時間確保	ALTとの打ち合わせの時間を確保する。
全職員による授業実践	全職員による授業実践を行う。
研究会の実施	研究会を実施する。



・必要感のある場面設定

・教師が学習者のモデルになる

・言語活動の観点を押さえた指導(中間評価)

・掲示物の充実(ALT・学年のイングリッシュコーナーなど)



①

②

①

成果①

○教員の外国語指導に関する意識向上

外国語活動・外国語科に関する意識調査を教員対象に5月と12月に行った。その結果は以下の通りである。(24人中)

アンケート項目	そう思う (5月)	そう思う (12月)
外国語の指導は好き(楽しい)ですか。	13人	19人
クラスルームイングリッシュは十分に使えますか。	3人	8人
外国語の教材研究は、十分に行えていますか。	4人	12人
外国語の指導に難しさを感じますか。	22人	13人

楽しみながら

自信をもって

十分な打ち合わせ

教師自身がモデルに

外国語の授業を楽しむ教員が増えた。また、研修の結果、クラスルームイングリッシュに触れる機会が増え、少しずつ自信をつけることで日々の授業に生かすことができるようになった。

②

成果②

○児童の言語活動の質の向上

・単元のゴールを見据えた場面設定をすることで、児童にとって必要感のある言語活動を行うことができた。その際、観点(Smile, Eye contact, Clear Voice, Gesture, Response)に沿った指導をすることで、相手意識を持った活動ができ、言語活動の質が向上した。

例)3年生 Let's try1 「Unit7 This is for you」
クリスマスカードを作るために、欲しい形をゲットしよう
4年生 Let's try2「Unit5 Do you have a pen?」
お世話になった人に、文房具セットをおくろう
5年生 We can!1
「Unit5 She can run fast. He can jump high」
友達のできることを調べてクイズを作り、紹介し合おう
6年生 We can!2
「Unit6 What time do you get up?」
冬休みの日課表を作り、友達に紹介しよう

・外国語だからといって構えることなく、外国語をコミュニケーションの1つの手段として自然に受け入れることができるようになった。

・掲示物の充実により、様々な言語材料が児童の目に触れる機会が増え、外国語に興味を持つ児童が増えた。ALTとのやりとりが増え、積極的に外国語を使って手紙を書こうとする児童が増えた。

今後の課題・方向性

○外国語活動・外国語科における目指す児童像を具体的に設定し、系統的な指導を積み重ねていくことでコミュニケーション能力を育成していく必要がある。

○教師の外国語活動・外国語科に対する意識や取組において、温度差が見られる。すべての教師が必要感を感じる研修を行う必要がある。

○振り返りカードに系統性を持たせていく。

○外国語活動・外国語科の評価の在り方について